



## 第2回 JANAMEF セミナー

# 《 認知症の医療と介護の融合に向けて 》

主催：日米医学医療交流財団 後援：読売新聞東京本社・日本認知症ケア学会

現在約225万人とされている認知症は、10年後には約300万人に達すると推測されており、もはや病院や施設内に留まる問題ではありません。本セミナーでは、認知症診療の専門家、在宅医療支援の開業医、介護老人保健施設や特別養護老人ホームの関係者、海外事情に詳しい専門家に加えて、介護行政に関わる担当官も交え、認知症の医療と介護の最前線を学ぶとともに、お互いが抱える問題点を共有する機会を持つことにより、いかに医療と介護が一体となって、社会が認知症に対応すべきかを議論したい。

■日時： 9月24日（金）13:00～17:30（受付開始：12:00から）

■会場： 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟4階セミナーホール  
（東京都渋谷区代々木神園町3-1）

■参加費： 1万円

■定員： 300名

■認知症ケア専門士単位： 2単位

\*内容は予告なく変更される場合がありますのでご了承ください

### ----- プ ロ グ ラ ム -----

【開会挨拶】日米医学医療交流財団会長 小玉 正智

【来賓挨拶】厚生労働省老健局高齢者支援課 認知症・虐待防止対策推進室  
田中 教泰 課長補佐

【コーディネーター挨拶】日米医学医療交流財団常務理事 高瀬 義昌  
13:10～13:40

[1] 認知症の基礎知識

演者：高瀬 義昌（たかせ よしまさ）  
医療法人社団至高会理事長

我が国は未曾有の超高齢者社会となり、同時に認知症超大国になることは周知の事実である。議論の基調として、まず認知症の病態、鑑別すべき病態、最新の疫学情報を提示する。

13:40～14:10

[2] 質の向上／アメリカとイギリスの事例に学ぶ

演者：武藤 正樹（むとう まさき）  
国際医療福祉総合研究所長・国際医療福祉大学大学院教授  
（株）医療福祉経営審査機構 CEO

医療施策先進国ともいえる欧米の例をあげながら、我が国の医療・介護施策の実情と今後について述べる。

